

---

# 先生との一晚

美香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

先生との一晚

### 【Nコード】

N5043C

### 【作者名】

美香

### 【あらすじ】

部活中に倒れてしまった私気付けば病院のベッドの上で寝ていた。その病院での先生と私の会話です。

## 病院編

私（長橋美香）にとって良いことがおきた日の話です……。

《中学一年生の夏休み》 「夏休みなのに毎日部活があるなんてやだねえー」 「そうだねー」

少しは休ませて！って感じ！」

今の中学一年生はみんなこんな感じの会話ばかりしている。

毎日部活があるのが嫌らしい……。

私も表では嫌なフリをしているが、本当はそんなことまったく思っていない。

なぜなら、部活の先生（神山響也先生）に恋をしているから……。

いつも先生の事を見つめている……。

今も楽器を吹

きながら先生の事を見つめている……。

あれっ！？

目の前が回ってる！？

頭がフラフラする！？

何で！？……

……

気付いたら、私は病院のベッドの上にいた。

隣には私の片思い中の神山先生が、腕を組んで椅子に座って寝ている……！？

何で！？何で！！！？！！

……！！！？！？！！

あー、頭がこ

んがらがつてきた……。

「長橋！大丈夫か！？」 神山先生が私の顔を覗き込んで、心配そうに聞いてきた！？

先生の顔が近い！

「先生！な、何で私、こ、こんな所で、

ね、寝てるんですか！？」 わけが分からなくて言葉が詰まってる。

「覚えてないのか！？」

「はい……。何で先生の顔がそんなに

心配そうなのかも分かりません。」先生の顔が少し赤くなったような気がした。

「じゃあ、お前はどこまで記憶があるんだ・・・？」エツ、どこまでって先生を見つめてたところまでだけどそんな事先生に言えない。えーっと、あの時何してたっけ！？そうだ！思い出した！

「楽器吹いてて先生が教室に入って来た所まで。」

「そうか。それじゃあ、何でお前がここにいるか知ってるわけないか・・・。じゃあ、簡単に話すぞ。お前、倒れたんだ。」

えっ、うそっ！？何で！？驚きのあまり疑問が声にならなかった。

「でも、心配するな！命がどうか、手術がどうかそんな、大変な事じゃ無いらしいから。」キヤーーーーー！！

先生が微笑んで私の事を見ているー！！！！！！！！てっ、そんな事よりも・・・

「私、病気なんですか？」たぶん、この時の私すごく不安な顔してたんだろっなあ。

「病気じゃ無いよ。俺も詳しい事は聞いてないから原因とかは分からないけど。でも、病院の先生がたいしたことないって言ってたから。大丈夫！！」

なんか、先生の言葉がすごく嬉しいそれに、先生とこんなに話したの初めて。なんか、先生と2人だけで話してると思うと顔がニヤけてしまいそうだ。

もしかして顔がニヤけてるかも・・・。

「そうだ！！先生、今何時ですか？外暗いみたいですが・・・。」

カーテンの隙間から見るかぎり夜遅いのは確かだ。

「12時だよ。」12時ーーーー！！！！？こんな時間に

お父さん以外の男の人と一緒にいたこと無い。

先生が初めてかも・・・。嬉しさで死にそー。

顔がニヤけてる。

今度は絶対、

「先生、家に帰らなくても大丈夫ですか？」

「なんで？」

なんでって・・・。

でもなんか不思議そうにしてる先生の顔がカワイイ。

「奥さんとかが待つてないですか？」

「俺、結婚してないから奥さんなんていないよ。」 うそー！

？ 先生結婚してないんだ！？ビックリ！？！？……………

今、一瞬チャンスがあるかもとか考えちゃった……

「先生、結婚してないんですね！たしか、24才でしたよね？」

「そうだよ！よく覚えてたね！。実は俺に気があるとか？」  
凶星だ！？

私、顔に出やすいタイプだから先生に気付かれたかも知れない！

笑い声が聞こえた。

「冗談だよ！なんか、長橋つてからかうと面白い。」 バレなかったらしい……………よかったあ！。 最後の面白いはいいい意味なのかな？

「からかうなんて先生ヒドイ！！」

私は、頬を膨らまして怒った。「すまん、すまん。」

先生が笑って私を見てる！今なら死んでもいいかも。

「もう、からかわないで下さい。話は変わりますが私、長い間入院とかするんですか？」  
だとしたら、部活行けなく

て先生に逢えなくなるから嫌だ…………… 絶対、嫌だ。

「入院なんてしないよ。明日の朝には家に帰れるよ」  
良かったあー！ 「俺がお前の家まで送つてやるから。」

先生に送ってもらうー！？嬉しい！！ 「でも、先生忙しいのに大変だからいいですよ。」 本当は送ってもらえるなんて2度と無いと思うから送ってもらいたいけど……………

「もともと悪いのは俺だから……………」 えっ、何で先生が悪いの？どっちかと言うと先生と、たくさん話せて嬉しんだけど……………

「先生が何で、悪いんですか？」 先生の顔が悲しそうになった。

「俺が部活にきちんといてお前の体調が悪いのに早く気付けば、お前は病院に来る必要なかったんだから」先生すごく気にしてる。

「先生！！そんなこと気にしないでください。私がもし先生が原因で死んだら、気にするかも知れませんが。病院に来たくらいでクヨクヨしないで下さい。気にしてばかりいると私、逆に怒りますよ！」

言っちゃった・・・。

分かった。でも、お前を家までは送らせる。」

「じゃあ、お言葉に甘えて送ってもらいます。」

つてすぐに寝た。

家に帰ったはず。

あんな夜は2度と過ごせないだろう。  
になった一晩だった（私にとって）。

そうだ！私が倒れた理由は貧血（結構

ヒドイ）だったんだって！！

この後、私は眠いからと言  
先生は多分、

一生の思い出

## 病院編（後書き）

一応連載にしましたが、皆さんからのコメントがなければ書きませ  
ん。御了承願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5043c/>

---

先生との一晩

2010年11月19日16時51分発行